

地球科学輻合ゼミナール (2014年度 前期 第7回)のご案内

北海道有珠山における 熱水系と噴火に伴う温泉の変化

柴田 智郎

京都大学 大学院 理学研究科 地球熱学研究施設

火山周辺部では、マグマから放出される熱や揮発性物質と地下水が混合し、熱水系が形成されている。この熱水系は火山活動とともに変化し、時として水蒸気噴火などの原因となることから、その構造を理解することは重要である。本講演では、北海道有珠山における熱水系について紹介する。有珠山は洞爺カルデラの南縁にあり、その北麓には1910年の噴火活動後に発見された洞爺湖温泉がある。1977-78年の噴火活動では、洞爺湖温泉の温泉水の温度や化学組成が大きく変化したことが報告されている。2000年の噴火活動においても、温度と化学組成の濃度が一時的に高くなった。一方、温泉の水位は、噴火の約半年前から温泉の低下傾向が見られ、さらに3ヶ月前になると加速していることが明らかとなった。このように有珠山地下に胚胎する熱水系と火山活動に伴う変化について説明する。

5月28日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室